

西成瀬歴史散歩

～ミニ～

Vol.3 令和4年 3月発行

西成瀬地区交流センター運営協議会

〒019-0711 増田町荻袋字真当 72

TEL : 45-2657 FAX : 45-4092

今回のテーマ：

おらほの地名の由来はな～に？



皆さんは、自分が住んでいる土地の「地名の由来」をご存知ですか？日本各地には、地形や自然の状態が由来だったり、人の名前が由来になっている面白い地名も存在するようです。今回は、熊淵、大和沢、荻袋、吉野、上吉野、湯野沢の「地名の由来とされている説」や「伝承」を紹介します。知ればもっと地名に愛着がわくかも…？

※菅生、鍋ヶ沢、安養寺については vol.1 「菅生三ヶ村の開村」の中で触れたため割愛いたします。

◆ 熊 淵

熊淵の由来については、洪水の際、熊が流されて引っかかったことからという説や、流木が集まってグルグル回っている淵の様子を表したという説、そして熊は大きくて力が強いものの象徴なので、大きな淵という意味で熊淵となった…などという説もあるようです。

一方、成瀬川が方向を変え対岸を直撃し、その浸食によってえぐり取られた地形から「隈の淵」とも考えられるのではないかと

いう話もあります。（「隈」という漢字には奥まったところや片隅という意味もある）

昔の熊淵に動物の熊がいたのかは分かりませんが、激しい川の流れから連想された地名であることがうかがえます。



◆ 荻 袋

荻袋は、成瀬川の河原の荻（イネ科ススキ属の植物の一種）が茂り袋のようにせまくなっているところ、という意味から「荻の袋」という地名が生じたのではないかと

いう説が有力です。ところで、荻（おぎ）という字と間違われやすい萩（はぎ）の違いをご存知ですか？「おぎ」は属性の通りススキによく似た植物で、湿地などに群生する多年草です。対して「はぎ」はマメ科ハギ属の植物で、赤紫色の小さな花をたくさん咲かせ、秋の七草のひとつとしても知られています。字で見るとそっくりですが、実物はまったく似ていないのです。

見た目は瓜二つだけど、河原や水辺に多いのが「おぎ」、野原や乾いた場所に多いのが「すすき」



おぎ
荻

くさかんむり+けものへん+火



はぎ
萩

くさかんむり+秋

秋のお彼岸に食べる「おはぎ」も、荻の花に見た目が似ていることが語源となっているとか



裏へ続く

◆ おおわざわ 大和沢

大和沢という地名は、「**おおあなざわ 大穴沢**」がなまったものと考えられるそうです。しかし、その理由やいつから呼び名が大穴沢→大和沢となったのか、詳しいことは知られていません。

ただ、「大穴」ということばが使われていたことから、当時の大和沢(大穴沢)は窪地や木々が密集してトンネルのようになった場所…穴を連想させる土地にできた村だったからではないか?ということです。

◆ よしの 吉野

かつて吉野の周辺は湿地帯で葦(イネ科ヨシ属の多年草)が多生していたのでそこから「よしの」ではないかと伝えられています。

また、古文書の一説に「**山桜が多いので奈良の吉野に似ているからではないか**」という意味の記述があるそうです。さらに別の記録では、**修験者(山岳修行をする人)が当地の山を奈良の吉野山に見立て修行の場とした**。との内容もあり、遠く離れた奈良との不思議な縁を感じるエピソードが由来として有力だとされています。

※奈良県吉野山は桜の名所、そして修験道の霊場としても有名です。



◆ かみよしの 上吉野(焼山)

上吉野を、通称「**やきやま 焼山**」と呼ぶ、あるいはそう呼ばれるのを聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか?いつから焼山と呼ばれ始めたかは不明なのですが、上吉野の漆沢入口付近で焼物(陶器)を焼いた窯の跡があり、「**焼物が生産される山**」から発想された地名ではないかと推測されています。

なお、この窯跡は現在史跡保存のため土で覆われ見ることはできませんが、平成10年に発掘調査が実施され、全長が15mにもなる大きな**のぼり窯**だったことが明らかになっています。調査の際の資料や出土した遺物等はセンターに展示中です。

◆ ゆのさわ 湯野沢

湯野沢の地名の由来は、六沢地内に**れいせん 霊泉**(不思議な効き目のある泉や温泉のこと)が湧き出たところ、からその名がついたと言われています。

かつて湯治場として栄えた時代もあったようですが、いつ頃のことだったのかははっきりとはわかっていません。

しかし、付近には「薬」や「湯」とつく古い地名も残っているため、もしかすると湯野沢は「薬のようによく効くいい湯っこ」が湧くところとして知られていた…なんてことがあったのかも知れません。そんな温泉があったら、入ってみたいと思いませんか?

